

Every second, Sugoi.

TOKYO  25

WORLD ATHLETICS
CHAMPIONSHIPS
T O K Y O ● 2 5

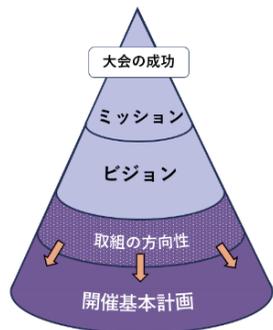
13-21 SEPTEMBER 2025



東京2025世界陸上競技選手権大会の開催結果について

- (1) 大会名称：東京 2025 世界陸上競技選手権大会
- (2) 主催：ワールドアスレティックス(WA)
- (3) 主管：公益財団法人日本陸上競技連盟(JAAF)
- (4) 大会運営組織：公益財団法人東京2025世界陸上財団
- (5) 開催期間：2025年9月13日(土)から21日(日)まで9日間
- (6) 競技会場：国立競技場(マラソン、競歩は都内で実施)
- (7) ウォームアップ会場：代々木公園陸上競技場、東京大学陸上競技場
- (8) 練習会場：東京大学陸上競技場、大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場
- (9) 種目数：49種目
- (10) 参加国・地域：193か国・地域 + 難民選手団
- (11) 参加選手数：1,992名(男性1,034名、女性958名)

ミッション



1. 多くの人々に夢や希望を届ける
2. 今後の国際スポーツ大会のモデルを示す

大会開催ビジョン

東京ドリーム 東京ブランド 東京モデル

大会メインカラー



江戸紫（えどむらさき）

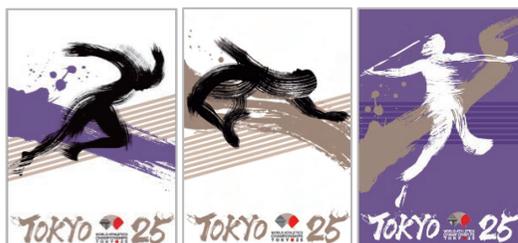
カラーコード
7 4 5 3 9 9
Red:116 Green:83 Blue:153

大会ロゴ



世界-東京-つながる。

コアグラフィックス



ほとばしる情熱と日本の美学

大会モットー

Every second, Sugoi.

公式マスコット



RikuOne
りくワン

- 2023年7月財団発足時にミッション「多くの人々に夢や希望を届ける」「今後の国際スポーツ大会のモデルを示す」を掲げ、同年10月に大会開催ビジョン「東京ドリーム」「東京ブランド」「東京モデル」を設定
- 同年11月、ミッション、大会開催ビジョン、スポーツの根幹であるフェアネスとアスリートセンターードを基本に、大会を成功に導くための開催基本計画を策定
- 公平・公正、透明性を確保し、フェアネスを体現した組織運営を徹底することを明記

東京ドリーム

アスリートが活躍する最高の場を創出

- 満員の国立競技場の声援の下で、自らのベストを尽くすことができる最高の環境を提供します。

多様な人々の大会への参画

- 年齢・障害の有無に関わらず誰もが、スポーツの素晴らしさ、多様な価値観を認めあう大切さなどが実感できるよう、大会への参画を推進します。

東京ブランド

街全体でのおもてなし

- 成熟した社会インフラや温かいおもてなしで歓迎し、東京の魅力を体験できる取組を展開します。

戦略的なPR

- 様々な広報媒体と連携した広報や気運醸成の取組、大会ロゴを用いた広報PRを展開し、大会の魅力を効果的に発信します。

東京モデル

子どもたちへの観戦機会等の提供

- 未来を担う子どもたちに大会を観戦する機会を提供し、夢や希望を育む契機にしていきます。

環境負荷の低減

- 省エネの推進、再エネの活用、環境に配慮した輸送方法の取組等を通じて、脱炭素社会の実現に寄与していきます。

スポーツ文化
の広がり

次世代への価値
の継承

ボランティア文化
の一層の発展

未来につなぐ
世界との絆

環境配慮行動
の気運醸成

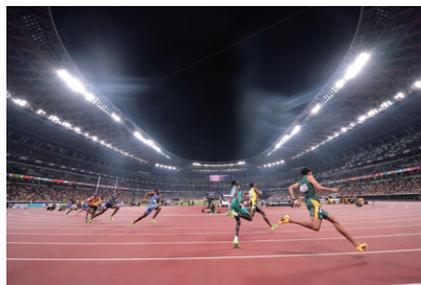
持続可能な
大会モデル

東京2020大会のレガシーを引き継ぎ、大会成功に向けた取組を通じて得られるこれらのレガシーを未来に繋げる

～ドキドキ、ワクワク、みんなの笑顔が織りなす大会の実現～

アスリートが活躍する最高の場を創出

- **フルスタジアム**
7つのイブニングセッションでフルスタジアムを実現約62万人に到達。地鳴りのような大歓声が響き渡った
- **好記録が多数誕生**
世界記録1個、大会記録9個など、アスリートが自己の限界に挑戦し、感動・興奮が溢れる大会に
- **チケットプロモーション**
フルスタジアムを実現すべく、東京都、ぴあ、TBS、日本陸連、スポンサー各社など関係者と協力
- **競技運営体制**
全国の都道府県陸上競技協会等の協力の下、NAR240名、競技運営コラボレーター718名など万全な体制を構築
- **セーフガーディング**
ポリシーを策定し、アスリートへの誹謗中傷を行わないことを呼びかけるステートメントを大会前に公表



多様な人々の大会への参画

- **ボランティア**
 - ・年齢、国籍、障害の有無等を問わず幅広い人材が参加研修で知識を習得し大会の随所で温かくおもてなし
 - ・2,858名が活動し、今後も参加したい方が98%となり、東京2020大会で広がったボランティア文化が一層発展
- **こどもの参画**
 - ・大会ロゴやメダル、マスコットのデザインに意見反映マスコットのデザインについては、オンラインでネーミング投票を実施し、「りくワン」に決定
 - ・東京都と連携し「こども記者」を実施。都内中高生が日本陸上競技選手権大会やMOWAを取材
 - ・WAと連携し「Kids Press Conference」を実施し、国立競技場の記者会見場で村竹ラシッド選手等をインタビュー
 - ・バックステージナビゲーターがメダリストをエスコート
- **エキシビジョンレース**
マスターズ、パラリンピック選手、デフリンピック選手、中学生アスリートが国立競技場の観客の前でパフォーマンス



～東京と世界を結び、東京らしさを発信～

街全体でのおもてなし

- **ボランティア等のおもてなし**
 - ・2,858名のボランティアが国立競技場など各会場でおもてなし
 - ・718名のコラボレーターが競技運営を支援
- **東京や日本の魅力を発信**
 - ・東京の魅力や歴史などを体感できるマラソンコースを設定
 - ・ラウンジ等でいけばなや甲冑等の展示、茶道体験を実施
 - ・WA総会ディナーで江戸の里神楽などを披露
 - ・大会関係者に東京の魅力を伝えるツアーを実施
 - ・会場装飾では筆で表現されたコアグラフィックスを基調に洗練された格調高い大会を表現
 - ・国立競技場内外で「Tokyo Tokyo」アイコンを掲出
メダリストに副賞としてぐい呑みをアイコンを用いた木箱に入れて贈呈
- **安全安心な大会**

警備体制を確保しテロや雑踏事故の発生なし。暑さ対策も実施し、安全安心な大会を実現



戦略的なPR

- **大会公式ウェブサイト、大会公式SNS**
 - ・大会概要やプレスリリース、ニュースなどを発信
 - ・競技や選手の魅力、大会アンバサダーや出場選手のメッセージなどを発信
- **気運醸成**
 - ・行幸通りで「東京2025世界陸上 100 Days To Go!」開催
 - ・KK線（旧東京高速道路）を活用し、東京都主催で東京2025世界陸上前夜祭イベント「RUNS: INTO KK」を開催
- **大会ロゴを用いた広報PR**

「世界一東京一つながる。」をテーマとしたロゴをイベント等あらゆる場面で活用
- **先進的な技術の活用**

SAF、Airソーラー、バイオ燃料、東京都のスタートアップ支援事業と連携した暑さ対策などを、世界中の人々が集う大会を契機に発信



～明日への希望と持続可能な未来へのステップ～

こどもたちへの観戦機会等の提供

● こどもの大会観戦

都内より49,290名（3～18歳のこどもたち（引率者含む））を観戦招待。東京都作成の資料で事前学習するとともに、応援メッセージを選手に伝達

● バトンプロジェクト

都内全小学校に本大会オリジナルバトン8本セットを寄贈し、運動会等で活用。アスリートアンバサダーによるスペシャル授業も実施

● 国立競技場での競技体験・バックヤード見学

- ・大会期間中「世界陸上リアル教室」を開催。小学4～6年生（都内62校・2,959名）が熱戦が行われる現場で短距離走体験等に参加。現地参加が困難な重度障害のあるこどもたちも分身ロボットOriHimeを活用し、トラック走行や現地参加の小学生と交流
- ・大会前6～7月にスタジアムツアーを行い、小学4～6年生（都内延べ92校・7,109名）が短距離走を体験しバックヤードを見学



環境負荷の低減

● 気候変動・エネルギー・暑さ対策

- ・持続可能な航空燃料（SAF）の原料となる家庭の油回収キャンペーン（東京都実施）と連携
- ・Airソーラーを搭載した庭園灯を国立競技場周辺に設置
- ・レポインターナショナルと連携しバイオ燃料を活用
- ・東京ガスと連携しカーボンプレジットを活用
- ・Honda提供の電気自動車等の低環境負荷車両を活用
- ・東京都やスポンサーと連携し様々な暑さ対策を実施

● 資源循環

- ・マイボトル推奨、ポカリスエットリターナブル瓶活用等
- ・大塚製薬と連携し「ボトル to ボトル」水平リサイクル実施
- ・バナナ余剰分の子ども食堂等での活用など食品ロス削減

● 環境改善

大会初日に森永製菓と連携し「プロギング」を実施

● ABW基準（WAが定める大会の持続可能性評価基準）

世界陸上としては初の最高ランク「プラチナ」を獲得



- 財団設立時、国際スポーツ大会の開催に対する都民・国民の視線は厳しさを増しており、東京2025世界陸上を成功させるためには、都民・国民の理解や共感を得ることが不可欠であった
- スポーツの根幹はフェアネスにあり、国際スポーツ大会の運営組織として公正で信頼される組織運営に力を尽くした

役員等の公正な選考

- 有識者を含む選考委員会を設置
- 選任方針を策定
競技運営や国際スポーツ大会、組織マネジメント、ガバナンス・コンプライアンスに関する知識経験を踏まえ選任し、コンパクトで機能する理事会に
- 選任方針・理由を公表



厳正な契約手続き

- 財団内に弁護士・会計士を含む契約・調達委員会を設置し審査
- 財団外部にも、東京都、日本陸連、財団で契約・調達管理会議を共同設置し、重層的なチェックの仕組みを構築
- 入札（見積）の経過状況など契約結果の詳細を公表



利益相反問題の防止

- 専門人材の直接雇用等を活用
- 特にマーケティング部門では広告代理店からの出向を受け入れなかった
- ガバナンス担当理事・外部有識者で構成する第三者審査委員会を審査
- スポンサーシッププログラムを公開し公募・入札により直接販売



実効的な監査体制及び手法

- 監査室、監事、会計監査人が密に連携する三様監査体制を構築し、監査機能を強化
- 不正の未然防止、早期発見のためのリスクアプローチ手法を導入
- 四半期ごとに三者で意見交換会を実施し情報を共有



情報の積極的な公開

- 東京都に準じた情報公開制度を導入
- 第三者審査委員会が開示決定の適正性等を担保する審査体制を構築
- 大会公式WEBサイトで法定事項に加え、役員等選考に関する情報など組織の重要な決定等を発信



- 収入・支出ともに162億51百万円となり、**収支均衡を達成**
- 本大会の成功には、大会運営の成功に加えて、経費の増嵩を防ぎ、財務の健全性を確保することが不可欠であるとの認識のもと、**組織一丸となって、サービスレベルの適正化・経費の精査を徹底**

収入 (単位：百万円)

項目	決算見通し
日本陸連	991
協賛金・寄付金等	4,015
チケット	4,910
国	2,000
東京都	4,335
計	16,251

支出 (単位：百万円)

項目	決算見通し
仮設等	3,520
輸送・警備	1,658
オペレーション	5,527
管理・広報等	5,546
計	16,251

競技運営

● 競技運営体制の構築

競技運営本部を設置し準備を進め、全国の都道府県陸上競技協会等の協力を得ながら、NAR（総数240名）、競技運営コラボレーター（総数718名）の競技運営体制を構築

● ドレスリハーサル

大会2日前に国立競技場で実施。競技運営における一連の選手フローや演出、放映等様々な事項を予行演習

● 競技日程

最終日、男子4×100mリレー予選などの再レースや強雨による一時中断もあったが、NAR体制の変更や関係部署が連携し、全日程を無事に完遂

● メダルセレモニー

国立競技場周辺にメダルプラザを設置し、チケットを持たない人もメダリストを祝福

● 医療

医師、看護師、トレーナー、ボランティアのファーストレスポnderなど総勢500名以上の医療体制を確保

● アンチドーピング

日本陸連、JADA、J-Fairnessと覚書締結。1,179件検査実施



会場運営・大会サービス

● 国立競技場の運営

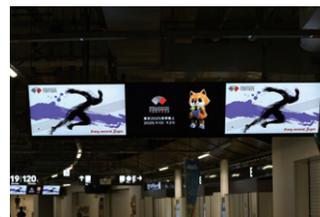
- ・可能な限り会場内の部屋等を使用し諸室配置を計画
- ・会場内を9つにゾーニングし関係者をアクセスコントロール
- ・会場所所有者のJSCや運営事業者のJNSEと協力体制を構築
- ・財団警備担当等と連携し観客誘導體制を構築
- ・迷惑撮影防止のため、デジタルサイネージ掲出、観客誘導員の呼びかけを実施

● ウォームアップ会場・練習会場

- ・代々木公園陸上競技会場は、既存の避雷針を落雷抑制型の避雷設備に交換。フィールドにテント66張と発電機を配置し各チームの待機場所とした
- ・東京大学陸上競技場は、大学と利用方法等を細かく協議、学生の使用期間をできる限り長く確保。投光器や防球ネット等を調達し安全な環境を整備
- ・大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場は、投光車を調達し夜間も安全に練習できる環境を整備。テントを設けチームエリアとして運用

● 会場清掃・廃棄物

- ・各諸室の用途に合わせ清掃レベルを定め、効率的に実施
- ・ごみ・資源の分別の表示を分かりやすくするなど分別を徹底



会場運営・大会サービス

- **ロジスティクス**
 - ・大会で使用する物品の国立競技場等への配送等を実施
 - ・ステークホルダーの物品輸出入に際し通関業務等を支援
- **ア krediyation**
 - 発行センターを4か所設置し、25,182枚を発行
- **警備**
 - 世界規模の大会に際し、警視庁と連携しテロ対策、雑踏対策を両立。重大事件、雑踏事故は発生せず
- **飲食**
 - 飲食提供実施計画を策定。各対象者のニーズ等に配慮するとともに、食数精査等による廃棄抑制を実施
- **施設設営**
 - ・国立競技場の既存施設では不足する諸室や設備、機能等確保のため仮施設や仮設電気設備等を整備。放送関連で高水準の整備が求められる中、WAと協議し水準の最適化に尽力
 - ・設計・施工一括発注方式を採用し限られた期間で対応
- **情報技術**
 - 各会場の通信ネットワークの構築、利用周波数調整等メディア・放送事業者等多岐にわたる関係者に、安全かつ信頼性の高い情報インフラを提供



会場運営・大会サービス

- **出入国・ビザ（査証）**
 - ・関係省庁と協議の上、出入国運営計画を策定
 - ・査証が必要となる対象者を支援（137か国・地域、2,211名）
 - ・空港にはウェルカムデスクを設置
- **宿泊**
 - ・効率的な輸送や大会関係者を分宿しない等の観点で施設選定
 - ・選手団、WAファミリー、コンペティションデレゲート、NAR・医療スタッフ、メディア等大規模かつ多様な対象の施設を確保
 - ・ウェルカムデスク、食事会場運営等を実施。選手団からのメニューや食事時間等の要望にも対応
- **輸送**
 - ・環境配慮、都市活動との共存、アスリートセンタードを基本方針
 - ・メディア・放送関係者に交通系ICカードを配布し公共交通機関を活用
 - ・ウォームアップ会場が国立競技場から離れていたが、試走を計70回近く実施。大会期間中は、輸送ルート上に交通監視員、バスにGPS機能付無線を持つNARを配置し状況を把握。計280回の選手輸送を円滑に行い、全競技を予定通り実施
- **メディアオペレーション・ブロードキャスト**
 - ・世界各国・地域総勢約860名のメディア関係者が熱戦を報道ミックスゾーンや記者会見場、記者席、撮影ポジション等取材エリア、メディアセンターを計画、準備、運営
 - ・WAやWAが指定するホストブロードキャスターと連携し、国際信号制作の拠点やスタジアム内のカメラポジション等放送施設・設備を計画、準備、運営

広報・気運醸成など

● 広報・気運醸成

- ・WAほかスポンサー各社、東京都、日本陸連など様々な主体と連携。東京都、TBS、日本陸連と協定を締結
- ・スペシャルアンバサダーとして織田裕二氏、アスリートアンバサダーとして5名のアスリートが就任
- ・大会2年前、500日前、1年前、200日前、100日前、1か月前など、節目で気運醸成イベントを実施

● チケットینگ

- ・東京都、ぴあ、TBS、日本陸連等と連携しチケットプロモーションを戦略的に実施。チケット販売枚数は58万枚を超え、過去の国内2大会を更新
- ・メリハリある価格設定、パリ五輪に合わせた先行販売や年末年始特別販売、販売座席の追加など様々工夫

● コマーシャルオペレーション

国内スポンサーシッププログラムを担い、東京2025世界陸上プリンシパルサポーター4社、東京2025世界陸上サポーター5社、東京2025世界陸上サプライヤー4社の合計13社のスポンサーを獲得。大会時はコマーシャルディスプレイを展開

● ボランティア

- ・年齢、国籍、障害の有無等を問わず幅広い人材が参加
- ・2,858名が活動し、今後も参加したい方が98%となり、東京2020大会で広がったボランティア文化が一層発展

● プロトコール

国内外の多くの要人をおもてなし。ラウンジを含む関係者エリアで東京都等と連携し大会や東京や日本の魅力を発信

東京都との協力・連携

● 財団設立に向けた支援

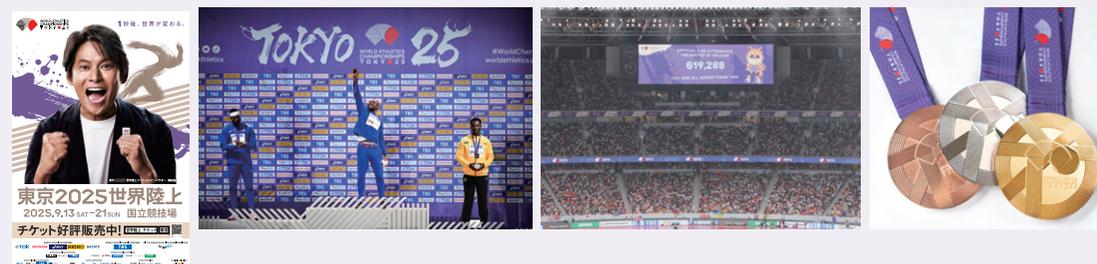
日本陸連と東京都は設立準備会を設置。2022年12月、東京都は有識者会議を設置し、ガバナンスや関与の在り方等を議論し、「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を公表

● 財団始動期の支援

- ・東京都は、ガイドラインを踏まえ、設立時役員等候補者選考委員会の委員に就任。理事会にも参画し助言、意見表明を実施
- ・2023年7月、財団は東京都と「2025年世界陸上競技選手権大会開催に向けた基本協定書」を取り交わした
- ・東京都は職員を派遣しガバナンス確保に向けた体制づくりを推進契約・調達管理会議の事務局運営を担い、50回を超える会議を開催し、重層的な審査体制を確保

● 財団本格活動期の支援

- ・「ビジョン2025」（2023年2月東京都策定）も踏まえ、財団は「開催基本計画」を策定し、東京都と連携し取組を進めた
- ・東京都は大会準備の進捗に応じ職員を派遣。財政面もサポート
- ・東京都は、ガイドラインに基づき、「適切なガバナンスの確保」「国際スポーツ大会を通じ東京の発展に寄与」「都民と共に大会を作り上げていくため参画機会を確保」の観点で連携、助言



東京2025世界陸上の成果を示す16の指標



入場者数
619,288人



'91東京大会、'07大阪大会を超える
国内最多の観戦者数

チケット販売枚数
583,326枚



7つのイブニングセッションで、
フルスタジアム達成

TBS累計視聴人数
7,977万人



全国規模で注目が集まった大会に

毎分視聴率最高値
31.7%



DAY9 男子4 x 100mリレー
日本中が熱狂し、社会現象に

アスリートセンタード
を徹底



ロード競技30分前倒しや的確な輸送、
リスペクト・フォー・アスリート
ステートメントの発出等を実施

選手輸送の遅れによる競技開始の遅延

0件



ウォームアップ会場、国立競技場間の
円滑な選手輸送で、すべての競技を
予定通りに実施

メダル獲得

53か国・地域



過去最多の実績で、多くのアスリート
が最高のパフォーマンスを
国立競技場で発揮

記録の誕生



世界記録1件、
大会記録9件、日本記録4件が誕生

東京2025世界陸上の成果を示す16の指標



大会公式WEBサイト

1,300万回



公式WEBサイトへのアクセス数

SNS動画視聴数

7億回



世界中の人々が大会を観戦

国内スポンサー

13社



広告代理店に頼らず、
公募によって多数の協賛社を獲得

ボランティア活動人数

2,858人



年齢や国籍、障害にかかわらず、
多様なボランティアが運営をサポート

都内こども観戦招待

49,290人



未来を担う多くのこどもたちに
世界最高峰の大会を観戦する機会を提供
※招待数、引率者含む

リレーバトンを寄贈

約**1,400**校



都内全小学校に寄贈し、
運動会等で使用し世界陸上の気運を醸成

テロ・雑踏事故

0件



安全かつ確実に大会運営を遂行

ABW

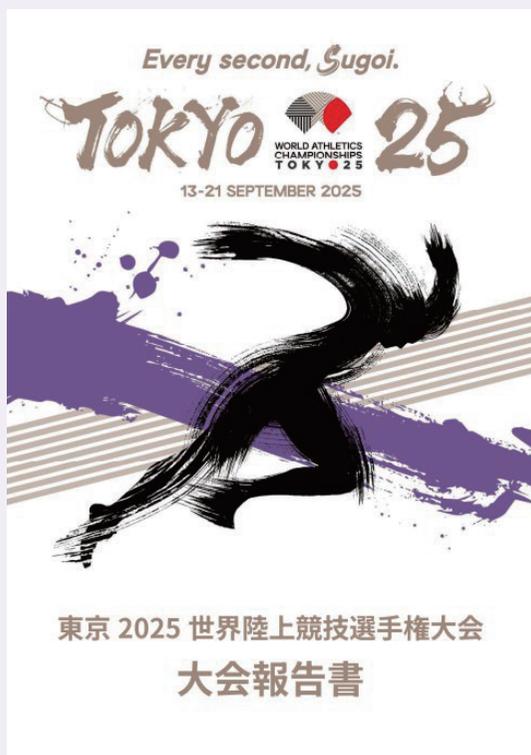
プラチナ



WAが定める持続可能性を評価する基準
(Athletics for a Better World Standard)
世界陸上初の最高評価を獲得

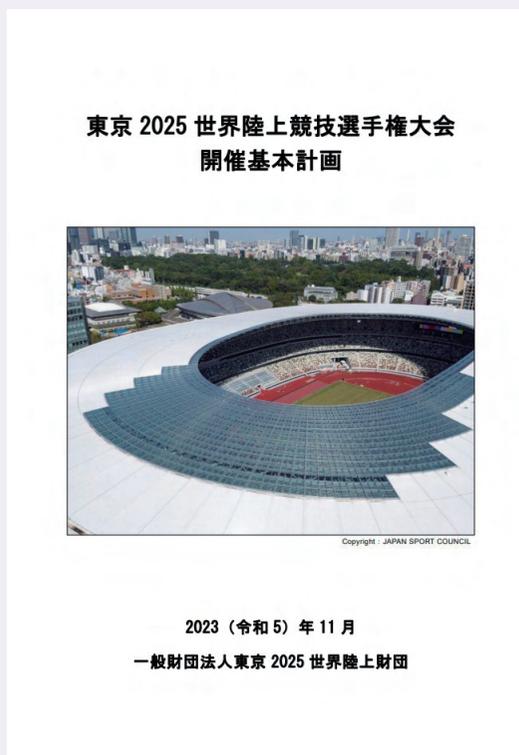
大会報告書

[大会報告書 | Tokyo 25 | World Athletics Championships](#)



開催基本計画

[開催基本計画 | Tokyo 25 | World Athletics Championships](#)



サステナビリティレポート

[サステナビリティ・暑さ対策 | Tokyo 25 | World Athletics Championships](#)





WORLD ATHLETICS
CHAMPIONSHIPS
T O K Y 2 5

Every second, *Sugoi.*